

ウサギの特徴

自分のうんちを食べる!?

うさぎさんのうんちには、
硬いうんちと、軟らかい
うんちがあって、軟らかい
うんちの中には栄養分が
残っているため、おやつ代わりとして、
食べることがあるよ!!

軟らかいうんちは
ちょっと臭いけど
でも食べるよ。
硬いうんちは臭くありません。



鼻をヒクヒクさせるのは
視力の代わり!!

うさぎさんはあまり視力が
良くないため、鼻を
ヒクヒクさせて匂いを
嗅ぎ取り、周りの情報を
察知しているよ!!

足裏は毛がフサフサ!!

毛がフサフサなのは足裏を傷つけないため。
また、天敵に見つからないように
足音を消すためでもあるよ!!

でか耳おみみ



たれ耳おみみ



ふっふ耳おみみ



ウサギたちの



顔の横に目があるのも
長い耳を持っているのも、
早く敵を見つけ、
すぐ逃げられるよう。

体の毛はフワフワ
しっぽもフワフワ。

まん丸に見えるしっぽ
には、ちゃんと骨があり

チョロっと長いのです。

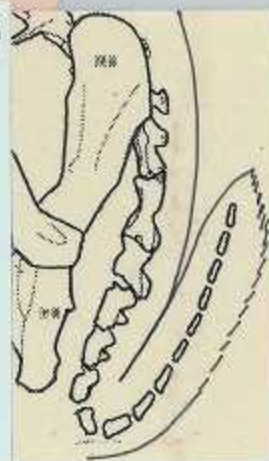
ウサギの背中やお尻を触った時
チャンスがあれば、しっぽを
そっとつまんでみてください。

本当の形を知ることが

できますよ。



つぶらな瞳ひとみ

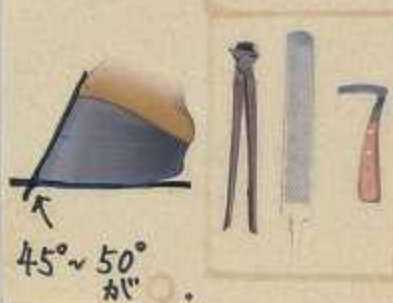




馬たちの大切な手入れ

馬を飼育するうえで、餌やりや獣舎の清掃だけではなく、手入れをすることは大切です。4頭のポニーたちへ行っている手入れをいくつか紹介します。

削蹄で使う道具



削蹄(さくてい)

馬にとって、大事な部分の蹄は、角度や長さ気に気をつけながら、削蹄を行う必要があります。

- エニフ、エルファー：2ヵ月ごと
- セレス：1ヵ月半ごと
- アルファー：1ヵ月ごと

馬が安定して体重計に乗れるように、木の板をかぶせます。



体重測定

馬も1年の中で体重が増減します。飼育している馬は、決められたスペースで生活するため、運動することが大切です。体重を計ることで、体の不調や餌の量の目安になったりと馬の状態を知る手がかりとしています。



裏掘り・ブラッシング

裏掘りとは、蹄に付いた汚れを取ることで、馬の蹄の裏側には、くぼみがあります。土や砂つぶ、フンなどを、道具を使って取り除きます。

ブラッシングは、砂浴びをして付いた汚れやフケを取るために行っています。

裏掘り・ブラッシングとも1日2回行っています。

・時には、こんなことも...

・前髪、たて髪、尾のブラッシングやカット

・蹄の保湿のため、蹄油を塗る。

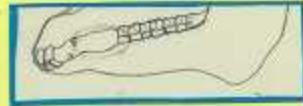
・シャワーを使って、体をキレイにする。

馬の特徴

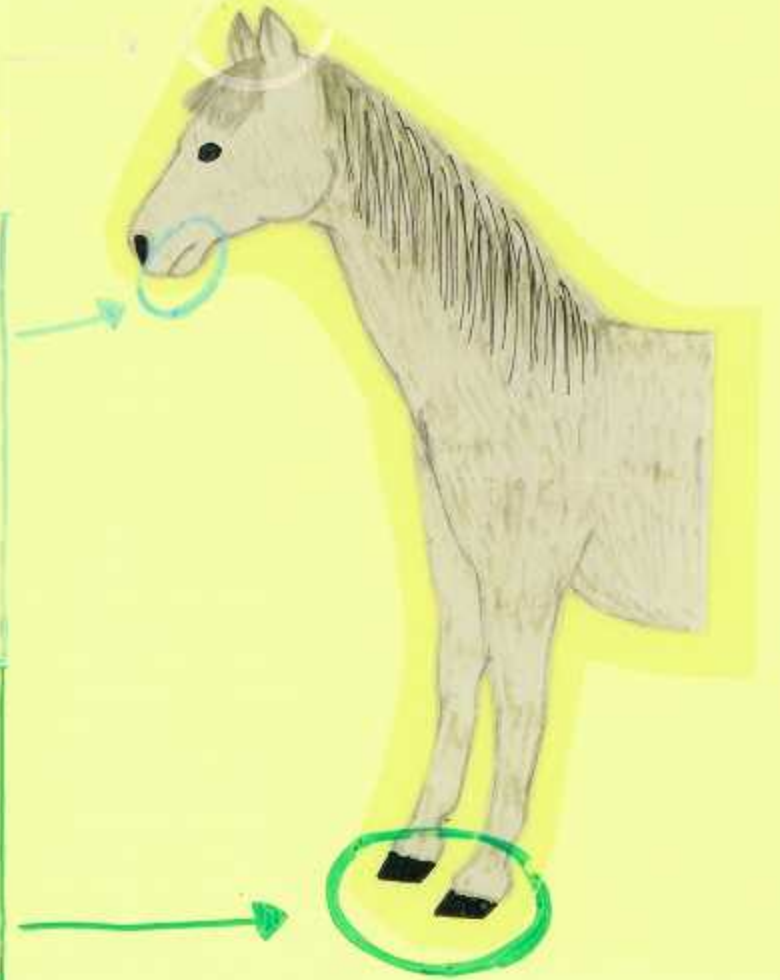
馬の体は、特徴がたくさんあります。今回は中でも耳、歯、蹄に注目して、お話します。

耳：馬の耳は、左右それぞれ動かすことができます。耳が向いている方向の音を聞いており、両方の耳が1つの方向を向いていると、そちらに注意を払っています。また、耳が後ろに伏せている時は、怒っている時です。

歯：馬の歯は、切歯と臼歯が発達し、草を噛み切り、すりつぶすのに役立ちます。そして、犬歯と臼歯の間にすき間があるのが、特徴的です。そのすき間があることで、乗馬の際に使う「ハミ」という道具を装着しても、餌を食べるのに邪魔になりません。



蹄：馬の蹄は1つです。その蹄は、人間でいう中指にあたります。蹄の裏側は、中央に蹄叉という部分があり、中央に向って蹄が凹んでいます。馬が歩くとパカパカ鳴るのは、そのためです。



ヤギ^{さん}ヒツジ^{さん}の^め目のヒミツ!

【ヤギ^{さん}とヒツジ^{さん}の目の共通点】

- ヤギ^{さん}とヒツジ^{さん}は、私たち人間とは違って、細長い長方形をしています。目が顔の横についているので、頭を動かさずにはほぼ真後ろまで見ることができます。



ぼくたちは、夜でも視力は落ちないんだ!!
だから、暗闇の中でも草を食べたり、移動したりすることができるんだよ。目の色はいろいろな種類があるけど、大森山動物園には目が黄色い子が多いよ!
ヒツジ^{さん}たちは、ぼくたちとは違う特徴があるのかな?

視野

ヤギ: 320~360°
ヒツジ: 270~320°
人間: 160~210°



飼育員の豆知識◎

ヤギ^{さん}もヒツジ^{さん}も
暗いところでは、黒目が
まんまるになるよ!



私たちは、奥行きを感じ取るのがニガテなの...
影や地面のくぼみが怖くて動けなくなることも
あるんだ。だから、もし立ちすくんでいることが
あったらあたたかく見守ってね!

ヤギとヒツジのしているところとちがうところはどーこだ!!

ちがうところその① つの


当園で飼育しているヤギには立派なつがあります。形は個体によって少しずつ違うのでお気に入りの子を見つけてみてね!!

それに対して、ヒツジにはつがありません。

*種類によって異なります。

共通点その① 目

黒目の部分が横長なんです!!

*私たちの身近にいるネコちゃんたちは縦長ですよ? 

まばしさに応じて黒い部分が大きくなったり小さくなったりするよ!



鳴き声もちょっとちがうよ!!

グエーグエー



XXXXXXXXXX

共通点その② 蹄

ヤギとヒツジは偶蹄目と言って、蹄の数が2つあります。

ちょっとハート型っぽくてかわいいですよ♡

共通点その③ 口

実はヤギもヒツジも上の歯が無いんです!!

歯が無いかわりに歯ぐきがとても固くなっています。

そのおかげで上の歯ぐきがまな板、下の歯が包丁のような役割をしてゴハン(草)を食べることができるのです!

スゴイ!!



ちがうところその② しっぽ

ヤギのしっぽは上向きで、内側には毛が生えていません。

ヒツジのしっぽは下向きで、実は結構長いんです。

大半のヒツジは大きくなる前に断尾といって、しっぽを切ってしまうんです!

これは糞や尿で汚れてしまわないように行うそうです。



共通点その④ 胃

ヤギもヒツジも私たち人間とちがって、胃が4つあります。胃の中では大量の微生物が住んでいて、消化を助けてくれています。

そして「反すう」と言って、一度食べた物を吐き戻して、もう一度咀嚼して飲み込むというのをくり返すことで、食べた草の栄養をムダなく吸収することができるのです。

ちがうところその③ 毛

ヒツジは、毛がモッコモコ!!!

ヒツジは毛刈りをしないとずっと毛が伸び続けます。なので、年に1~2回毛刈りを行います。

それに対してヤギは、毛が生えかわる「換毛」という時期があります。夏毛と冬毛はボリューム感や質感が違うので見比べてみて下さいね!

*種類によって異なります。

これがモルモットです



ネズミに近い
仲間ですが、
尻尾が
ありません

4本足の指の数、
前は4本、後ろは
3本、とがった爪
が生えています

赤ちゃんは小さくても
親と同じ姿、



目は開き、毛が生え、
歩くこともできます

ミニブタ

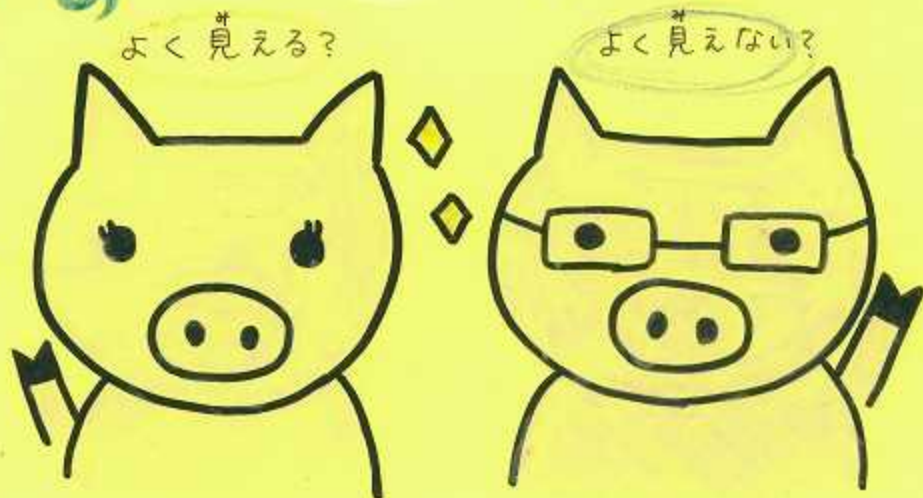
の体

のヒミツ



その1. 目のヒミツ

ちゃんと見えているように見えるけど、実は視力がとっても悪いんです！
ある実験では0.07~0.017程しか見えていないという結果が出たそうです...
ブタさんたちが、段差で転んでしまったりするのは、ただどんくさいだけではなく、
目が見えていないからなのだと思います。あたたかい目で見守ってね。



その2. 鼻のヒミツ

みなさんがご存知のとおり、ブタさんはとても鼻が良いんです！
さらに言うと警察犬などで知られている犬よりも嗅覚が優れているんです！スゴイですね！！
"その1. 目のヒミツ"で書いたように、視力は良くありませんが、目が見えないのをカバーできるほどの
すごい嗅覚を持っています。そして、一見、やわらかそうに見える鼻ですが、筋肉質で力も強いんです。
固い土を掘ることもできますよ！



その3. 犬さのヒミツ

体重が100kg以下のブタを総称して「ミニブタ」と呼んでいます。
「ミニブタ」と言っても世界にはいろんな種類のミニブタがいるんです！
ベトナム原産：ホットベリー、ドイツ原産：ゲッタンゲン など...
100kg以下って言っても大きくない！？と言われることもありますが、食べている食用のブタは、
200kgをこえる種類もいるようです...。
そう考えるとまだまだ小さいほうなんだな...って思いますよね。



ミニブタさんのお鼻はすごい!

① ブタさんの体の中で1番!?! すごい器官 それは... お鼻!! ①

→ 人間の数十倍 ~ 数百倍の嗅覚を持っています。

ペットとして飼われているだけでなく、麻薬捜査やトリュフの採集に利用している国もあるほどです。そして、このお鼻は、ニオイを嗅ぐだけでなく、器用に動かすことが、できるのです!! それは、ルーティングと言って、地面を自由自在に掘ることが、できます。

また、鼻の力は約20kgほどあると言われていて、他のブタとケンカしたり、邪魔なものを跳ね飛ばしたりと、少し凶暴な一面も持っています。

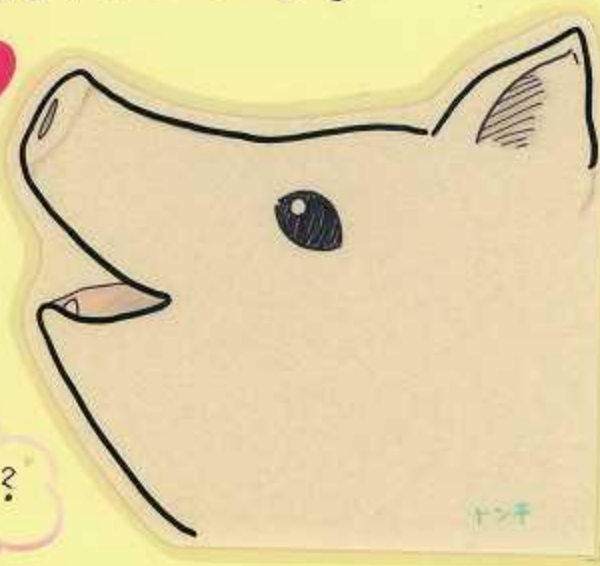
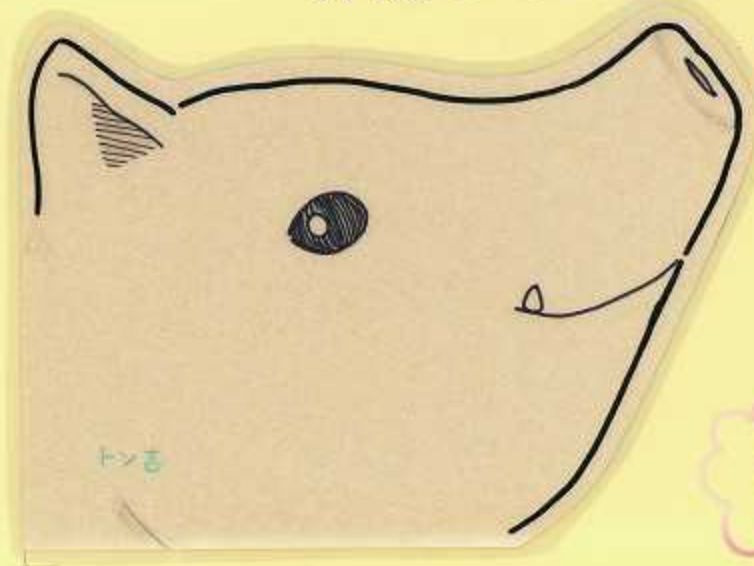
♡♡ 鼻を使って愛情表現 ♡♡

ブタマンは鼻を飼い主に押しつけてくることがあります。

愛情表現や、自分をかまって!! というサインとして、

使っているようです。

飼育員を鼻でグイグイしていたらそれは甘えている時かも!?



カメもお風呂に入る？

爬虫類の仲間では、陸で生活するリクガメですが、私たち人間のような、体をキレイにするためのお風呂は必要ありません。しかしリクガメも約40℃のお湯につかる「温浴」という作業が必要なのです。

温浴とは…

カメの顔が浸かからない深さのお湯に入れること。冬になると、室内にいる時間が長く運動不足になったり、寒さで室温が下がってしまうことで、腸の動きが鈍り便秘になってしまいます。放置すると、食欲が落ち食べられなくなることも…

温浴の時にはこんな苦勞が…

40kgを超えるゴダイ君も、時には温浴をします。お湯を入れる容器はカメにとって余裕のある大きさが必要。そして温浴が終わると、体が冷えない内にタオルで拭いて、お部屋に戻します。大きなゴダイ君を持ち上げて運んだり、動くゴダイ君の体を拭くことも苦勞します。

約30分後には…



ケツメリクガメの特徴

・大きな体

リクガメの中でも3番目に大きくなるカメです。

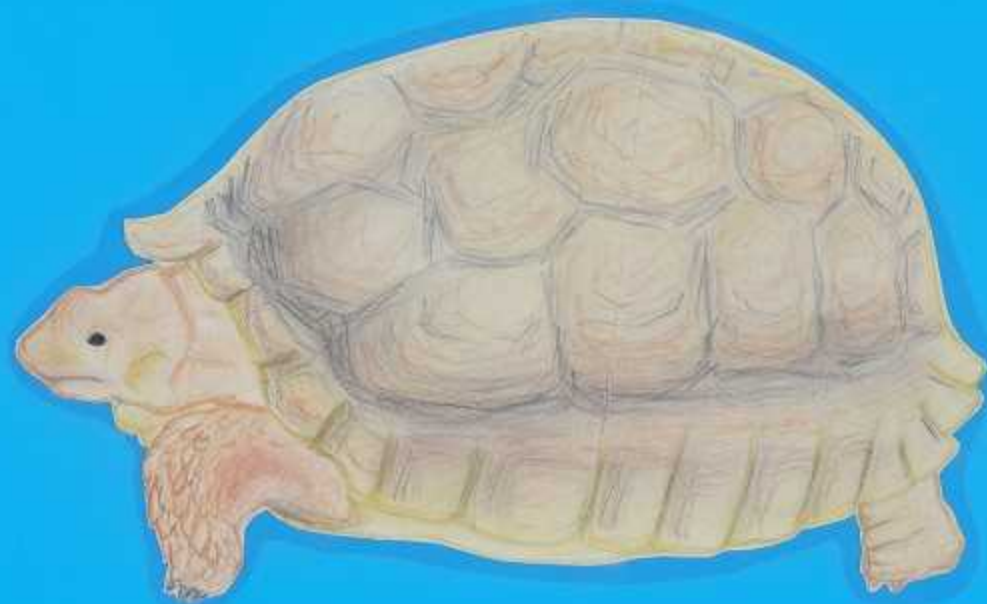
体重も40~50kgになります。



↑ 前足の表側の写真。
太く力強いです。手を引こめても外側になるため、大きく厚いウロコに覆われています。



↑ 前足の裏側の写真
体の中の方にしまわれるため、小さく薄いウロコです。



・カメの口

ケツメリクガメは、草食のカメですが、カメには歯がありません。口の周りは嘴であり、リクガメは植物を切ったり潰したりするために、厚い嘴になっています。

葉を嘴で噛み切りながら、舌で口の中に運び、飲み込んで食べています。

・ケツメリクガメの由来 (ケツメ、て?)

本来「蹴爪」(けづめ)は、キジやニワトリなど、足に後ろ向きに生えている爪です。

ケツメリクガメには、その蹴爪状の尖ったウロコが左右後ろ足に2つずつ付いています。

この特徴が名前の由来となっています。



ケヅメリクガメの

誕生 大森山編

① かつて大森山動物園では、ゴダイ♂、カメ吉♂、カメコ♀の3頭が暮らしていました。ゴダイ♂とカメ吉♂は、繁殖期には、カメコ♀をめぐって時に激しく甲羅をぶつけ合い、ケンカをすることもありました。カメコ♀は、ゴダイ♂、カメ吉♂両方と交尾しました。

★ ケヅメリクガメは、メスの甲羅にオスが乗り上げる姿勢で交尾をするので、オスの腹側の甲羅は、少しへこんでいます。

★ 産卵までにメスが複数のオスと交尾をした場合、1回の産卵で産まれる子がメスならは、父親がらがる兄弟になることがあります。

★ 一度交尾をすると、メスは、その時の精子を数年間、体の中にストックしておくことができます!! その間は、体内にある精子を使って自身の卵子と受精させることができるので、産卵に適した環境の時に、受精 → 産卵することが出来ます。

カメの体って
スゴイ!!



ケヅメリクガメは、

- 砂漠周辺やサバンナの寒暖差が激しく、雨季・乾季がある環境で生息しています。
- 卵から孵化した直後から、単独で生活します。(異性と出会うチャンスが貴重)

② 産卵!!

砂地に30cm以上の深い穴を掘る。
(甲羅が半分以上入る深さ)



始めは大きな前肢で穴を掘る。

不思議なことに穴をのぞくと、
ヤシヨクキムネオオハシの
コセン♀



後半は、小さな後肢で少しずつ砂をすくい上げるようにして、掘っていく。

20個前後の卵を30分~1時間ほどかけて穴の中に産む。
(1シーズンで2~4回ほど産卵。)

カメコ♀の産卵を見守るコセン♀ →



産み終わるとすぐに卵の上に砂をかけて穴を埋め、ていねいに均らす。

(どこに穴があったか分からなくなるほどきれいに均らすので、産卵中に写真を撮ったり目印を付ける。)

③ 孵化

重た物舎の砂の中では、卵が孵化するために必要な環境が十分ではないため、埋められた卵は砂の中から慎重に取り出し、孵卵器内で温めました。

温度30℃前後、湿度70%前後で調整・管理しました。

(※ 卵を孵化させるための専用の機器)

ケヅメリクガメの卵。
直径4cmくらい。
ちよどピンポン球くらい大きさ。



④ 誕生!!

100日程で子ガメたちが卵から孵化しました!!

大人になると甲長(甲羅の長さ)は60cm以上、体重は50kg以上と巨大ですが、

孵化した時は甲長4~6cm、体重25gくらいと、とても小さい!!



母・カメコ♀と子ガメたち。
(ちなみに、カメは子育てはしない、単独生活の動物です。)

父・ゴダイ♂とその子どもは、ふれあいの場内「カメハウス」で会えます!

ケツメリクガメ意外なご飯

ゴツゴツした手足に、立派な甲羅、成長すると大きくなるカメです。

大森山で一番大きなゴダイ君は、甲羅が55cm、体重35kg

にもなります。

そんなケツメリクガメは、完全なるベジタリアンなカメです!!

ケツメリクガメが普段食べている、ご飯を紹介します。



いつも食べているもの

この野菜も食べるよ!

果物も大切!!



- ・1種類にならないよう、複数の野菜と果物を食べさせます。
- ・ケツメリクガメは、意図的に水を飲みません。食べさせる野菜に水をたっぷりつけて、同時に水分補給をさせています。
- ・定期的にミネラルの粉末を餌にかけて、バランスの良い餌作りを心がけています。